

○ 2 1 年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて（概要）

資料3－1

品目 (出荷期間)	卸売数量及び価格 (東京都中央卸売市場 9/1～11/2)	供 給		需 要		需給・価格の見通し (第5回野菜需給・価格情報委員会 (21.10.29)での見通し)
		生産・出荷の現況 (主産地全般)	天候(代表的産地) (注) 今後1か月: 11/7～12/4	全品目共通	◆1人当たり購入数量(青)(対前年比、家計調査報告) ▲1人当たり購入金額(緑)(対前年比、家計調査報告) ●小売価格(東京都区部)(赤)(対前年比、小売物価調査)	
冬キャベツ (11～3月)		作付面積 (対前年) やや上回る	気温 前年8-10月中旬比 97% 今後1か月: 平年より高め	◆生鮮野菜の1人当たり購入数量(家計調査報告) 生鮮野菜全体の購入数量は、近年減少傾向。		・作付面積は、前年を上回る。 ・生育・供給状況は、台風18号の影響で小玉傾向であるが、年内は順調に出荷の見込み。 ・消費に関しては、横ばいとなっていることから、価格は、前年を下回ることが見込まれる。
秋冬だいこん (10～3月)		作付面積 (対前年) やや下回る	気温 前年8-10月中旬比 94% 今後1か月: 平年より高め	◆チェーンストアの販売動向(チェーンストア協会) (1) 販売額 総販売額と食料品は12月が最高で、2月が最低。 農産品はほぼ年間一定の販売額。		・作付面積は、前年をやや下回る。 ・生育状況は、台風18号の影響があるものの、おおむね順調。 ・出荷は、前年並か、前年をやや下回ると見込まれ、特に年明けはその傾向が強まると見られる。 ・一方、消費は伸びが見込めないことから、価格は、横ばいで推移することが見込まれる。
秋冬はくさい (10～3月)		作付面積 (対前年) 並	気温 前年8-10月中旬比 96% 今後1か月: 平年より高め	(2) 販売額の前年同月比 21年8月までの1年間連続して全体(総販売額)で前年を下回って推移。 中でも、衣料品の低迷が顕著。 農産品は前年を若干下回る展開。		・作付面積は、前年並。 ・台風18号の影響はあるものの、出荷量は、年内は前年を上回る見込み。 ・年明けは、平年より少ない可能性がある。 ・このため、価格は年内は前年をやや下回る可能性が高いが、年明けには変動が生じる可能性がある。
たまねぎ (11～4月)		作付面積 (対前年) 並	気温 前年8-10月中旬比 107%	◆生鮮野菜の輸入動向(貿易統計) 生鮮野菜(全体)はここ2年間は連続して過去5年平均を大きく下回る。 また、平成21年の輸入量が平成20年を上回った月は4月(102%)、5月(105%)、8月(128%)、9月(127%)。		・作付面積は、前年並。 ・生育状況は、天候不順の影響により、平年及び前年より著しく悪く(小玉化など)、出荷量は、平年及び前年を大きく下回る見通し。 ・このため、価格は前年を上回ることが見込まれる。
冬レタス (11～3月)		作付面積 (対前年) 並又はやや上回る	気温 前年8-10月中旬比 98% 今後1か月: 平年より高め	◆冷凍野菜の輸入動向(貿易統計) 生鮮野菜とは異なり、冷凍野菜のここ2年間の輸入数量は、過去5年平均とほぼ同じ水準で推移。		—
冬にんじん (11～3月)		作付面積 (対前年) 並	気温 前年8-10月中旬比 95% 今後1か月: 平年より高め			—